

令和4年度初任者研修及び新規採用教職員研修開講式

教育長挨拶

令和4年4月5日（火）13時30分
大宮国際中等教育学校グローバルホール

皆さん、こんにちは。教育長の細田でございます。

4月1日に辞令を交付され、さいたま市の教職員として、新たな一步を踏み出した皆さんの表情や姿からは、希望に満ち溢れた思いが伝わってきます。皆さんを仲間として迎えられたことを大変嬉しく思います。

「チームさいたま市」の一員となった皆さんへ、激励の言葉を申し上げます。

教師という仕事は、子どもたちの将来に関わる大きな使命をもち合わせています。今日まで多くの教育者が子どもたちを思い、様々な実践を重ねてきました。その中でも本日は、毛涯章平（けがい しょうへい）先生の言葉に触れさせていただきたいと思います。毛涯章平先生の言葉は、変化の激しいこの令和の時代においても、教職員としてあるべき姿について、私たちに多くの示唆を与えてくださいます。

毛涯章平先生は、長野県で40年間教員を務められ、同県下伊那郡豊丘村（しもいなぐん とよおかむら）の教育委員長などを歴任された方です。毛涯章平先生は、教師としての心構えや教訓として「わが教師十戒」を残されました。本日は、その中から一部を紹介します。

「近くにきて、自分を取り巻く子たちの、その輪の外にいる子に目を向けてやれ。」

「ほめることばも、しかることばも、真の「愛語」であれ。「愛語」は必ず子ども心にしみる。」

「教師の力以上には、子どもは伸びない。精進をおこたるな。」

教師とはどうあるべきかを皆さんに問いかける、奥深い言葉ではないでしょうか。この言葉には教職員として学ぶべきことが多くあります。自分が思い描く理想の教職員像を目指して、本日から1年間の研修に取り組む皆さんへ、私から期待を込めて、2つのことを申し上げます。

1つ目は、「子ども一人ひとりを大切にしてほしい」ということです。

子どもたちは、日々の学校生活の中で、たくさんの笑顔や成長する姿を見せてくれます。それを傍で見られることが教職員の喜びの一つでもあります。

皆さんが自校の子どもたちと対面するのはこれからですが、「わが教師十戒」にもあるよう、ぜひ輪の外にいる子どもにも目を向け、耳を傾けてほしいと思います。

また、子ども一人ひとりのよさを見付け、その伸長を図ることはもちろん、小さな変化を見逃さず、悩みや不安などに寄り添い、真の「愛語」で接することが必要です。まずは、子どもたちの考えや気持ちに共感し、一人ひとりに真摯に向き合ってください。そしてどんな時も、子どもたちの心に寄り添い、一人ひとりを大切にする教職員となってください。

2つ目は、「学び続ける教師でいてほしい」ということです。

将来の予測が困難なVUCAの時代と呼ばれる今、皆さんは、教員生活のスタートラインに立ちました。皆さんは、これまで、教職員になるという夢を叶えるために、教職教養や自身の専門分野など、たくさんのことを学んできたことでしょう。しかし、教職という仕事を続ける上で、学びに限りはありません。今後は、さらに多様で複雑化する社会の課題に向き合いながら、子どもたちが自ら考え、自律し、VUCAの時代を生き抜く力を育くんでいけるような教育を提供していくことが求められています。

現状に満足することなく、新たなことに挑戦し、自らを高めることが子どもたちの成長につながるのです。「学び続ける者のみ教うる資格あり」です。時代の変化を捉え、自ら学び、専門性を高めるとともに、実践的な指導力や豊かな人間性をもった教職員となるよう、精進をおこたることなく、常に学び続けてください。

皆さんは、これから一年間、仲間と共に研修を進めていきます。様々な研修を通し、互いを高め合い、学び合う仲間との絆や時間は、これからの教職員人生の中でかけがえのない財産となるでしょう。

「チームさいたま市」として、子どもたちの幸せ Well-being を実現する「未来の教育」のために、ともに力を尽くしてまいりましょう。

結びになりますが、御多用の中、御出席いただきました 三島 公夫（みしま きみお）さいたま市立小学校校長会会長並びに 岡野 育弘（おかのいくひろ）さいたま市PTA協議会会長に御礼を申し上げ、私の挨拶といたします。